

統計行政新生部会

2019 年（令和元年）11 月 1 日提出  
(株)コラボラボ 横田響子

### 改善が生まれる「褒める組織」定着のカギ

今回の問題発覚による対策で、新たなルール設定による業務増加は悪循環を招く可能性がある。体制強化による補完は当然ながら、統計部門は特にバックオフィスの役割から日常的に意義を感じづらい組織であるため現場が日々の小さな改善、大きな改革が生まれやすい褒める仕組みの導入が必要と考える。

#### <大前提>

- ・ 心理的安全性の担保  
(信頼し雑談や意見が出しやすい環境、長期的キャリアステップ)
- ・ 心的・時間的余裕が改善を生む  
(標準化、機械化、データ横断利用、知恵の横展開による業務工数減は必須)

#### <具体的な取り組みのヒント>

##### ○統計部門にとどめず、有機的なフィードバックを仕組化する

- ・ 統計を利用する部門側にはフィードバックすることを評価にも反映させる。
- EBPM の徹底にもつながる

##### ○褒める組織づくり

1. 褒める軸の明確化：横断的活動指標の数値設定と評価の連動
  - ・ 結果の軸だけでなく、表面的帳尻合わせとならぬよう活動プロセスの数値化も大事。
  - ・ 軸はできる限りシンプルに。ビジョン、直近の重点事項、活動指標と完全連動
2. 個人ではなく、チーム（統計）を褒める
  - ・ 課題と改善点を定期的に洗い出し小さくとも改善実行した項目を定期的に共有する
  - ・ 横断的にチームごとの改善ポイントを共有、ベストプラクティスを賞する
  - ・ ベストプラクティスを取り入れ改善につなげた場合、双方を加点する
3. コミュニケーションのハードルを下げ、日常的にフィードバックにつなげる
  - ・ テレビ会議システムや情報共有ツールを活用し相談しやすい